

Title	Evaluation of Suspicious Nipple Discharge by Magnetic Resonance Mammography Based on Breast Imaging-Reporting and Data System Magnetic Resonance Imaging Descriptors
Author(s)	徳田, 由紀子
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/49868">https://hdl.handle.net/11094/49868</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"&gt;大阪大学の博士論文について&lt;/a&gt;</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【56】

氏名	徳田由紀子
博士の専攻分野の名称	博士(医学)
学位記番号	第 22558 号
学位授与年月日	平成20年11月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	Evaluation of Suspicious Nipple Discharge by Magnetic Resonance Mammography Based on Breast Imaging-Reporting and Data System Magnetic Resonance Imaging Descriptors (BI-RADS MRI に基づいた乳頭異常分泌の乳腺MRIの評価)
論文審査委員	(主査) 教授 中村 仁信 (副査) 教授 青笹 克之 教授 野口眞三郎

## 論文内容の要旨

## 〔 目 的 〕

BI-RADS MRIに基づいて乳頭異常分泌症例のMRI像を病理学的所見と対比して評価する。

## 〔 方法ならびに成績 〕

乳房MRIを施行した乳頭異常分泌患者47名を対象として、分泌液に該当す

る異常信号と異常増強についてBI-RADS MRIに基づいて3名の放射線科医が評価し合議により所見を決定した。clustered ring enhancementの有無も同時に評価した。手術を施行した39病変については、病理組織学的所見と対比した。乳頭異常分泌症例の最も頻度の高い所見はnon-mass-like enhancementであった。17病変は悪性、22病変は良性であった。悪性病変の最も頻度の高い所見は、‘segmental’ (59%), ‘heterogeneous’ (57%), and plateau pattern (40%)であった。Clustered ring enhancementは悪性病変の60%に認められた(p=0.002)。「segmental」とclustered ring enhancementともに認められる場合は、悪性病変と有意に相関した(p=0.004)。

## 〔 総 括 〕

乳頭異常分泌は比較的良好に見られ、通常その原因は良性のことが多い。しかし、時に乳癌診断の唯一の兆候となることもある。臨床的には片側性、単孔性の分泌は乳癌を含む乳管上皮増殖性病変の可能性が示唆されるが、分泌液の細胞診、マンモグラフィや超音波等の画像検査では限界がある。今回、腫瘍性病変が疑われる乳頭異常分泌のMRI像を病理組織と対比して検討し、造影剤による増強のsegmentalな分布と内部構造のclustered ring enhancementがともに認められる場合は悪性病変と有意に相関し、乳頭分泌症例の診断・治療方針の確立に有用な結論を得ることができた。

## 論文審査の結果の要旨

乳頭異常分泌は比較的良好に見られ、通常その原因は良性のことが多い。しかし、時に乳癌診断の唯一の兆候となることもある。臨床的には片側性、単孔性の分泌は乳癌を含む乳管上皮増殖性病変の可能性が示唆されるが、分泌液の細胞診、マンモグラフィや超音波等の画像検査では限界がある。今回、乳頭異常分泌患者47名を対象に画像所見を評価し、病理診断と対比して、MRIにより乳頭異常分泌の良悪性の鑑別ができるかどうかについて検討した。悪性は17例、良性は22例であった。区域性の異常増強とclustered ring enhancementがともに認められる場合は、悪性の陽性的中率が最も高く(88%)、悪性病変と有意に相関した(p=0.004)。乳頭異常分泌の原因病変の存在診断および良悪性の鑑別に、MRIは有用な情報を提供すると考えられる。臨床に即した有意義な研究であり、学位に値するものと認める。